

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	7	0	0	十分なスペースを確保しています。
	②	職員の配置数は適切であるか	3	4	0	小学生担当と中学生担当を分けているため、支援が重なる時間には手薄感を感じやすいかもしれません。事前の指導ポイント、トラブル発生時の対応を確認しておくことで職員の混乱を減らしたいと考えます。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	1	4	2	階段昇降時、歩行が不安定な利用者やてんかん発作のある利用者の見守りや同行を実施していきます。
業務改善	④	業務改善を進めるための、PDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	6	1	0	できる限り当日中には支援の振り返りをして反省や上手くいった点を確認、共有しています。
	⑤	保護者等向け評価票を活用するなどによりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7	0	0	保護者向けアンケートやイベント開催後のアンケートを参考に次年度以降のイベント企画を検討しています。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	6	1	0	毎年公表しています。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	3	2	2	今後検討していきます。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	6	1	0	令和4年度は常勤職員に8つの研修を受講させています。（ABA、特別支援学校の開催する地域機関向けの研修など）
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、放課後等デイサービス計画を作成しているか	7	0	0	多角的な視点から就労における子供たちそれぞれの課題を分析し、ニーズに合った指導を立案しています。計画の振り返りは本人含め3者面談を実施しています。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	5	2	0	独自のアセスメントシートを活用しています。（就労支援事業所で運用しているものを一部児童用に作り変えている）
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	7	0	0	毎日目的や、指導のポイントに沿ったプログラムを立てています。
	⑫	活動プログラムを固定化しないよう工夫しているか	7	0	0	あえていつものプログラムを組み入れることがあります。様々な子どもたちの様子を観察しながら、より滞在時間が有意義なものとなるよう日々工夫しています。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	6	1	0	毎日目的や、指導のポイントに沿ったプログラムを立てています。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	7	0	0	グループプログラムは各曜日1日、月で6回設定しており、ここで個々の活動ではアプローチできない部分について指導をしています。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	5	1	1	送迎対応等で全員に細かく打ち合わせをしきれていない部分があるかもしれません。支援にあたる職員が混乱しないように、きめ細やかな対応を心掛けます。

	①⑥	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	2	4	1	できる限り対応しているが、支援の状況により時間が十分にとれないこともあります。
	①⑦	日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	7	0	0	可能な限り記録を確認しています。共有して次の支援につなげています。
	①⑧	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	7	0	0	半年ごとに面談し、計画を作成しています。
	①⑨	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	6	1	0	地域交流の機会は少ないかもしれないが、他の活動は年間を通じて定期的に提供しています。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	②⑩	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	7	0	0	主に児発管が出席しています。
	②⑪	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	7	0	0	保護者を通じて学校予定を確認しています。また、連絡事項は直接学校からメールで情報が伝達されます。さらに年に1回は事業所向けに説明会が開催され、可能な限り出席しています。
	②⑫	医療ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	3	1	3	対象となる児童は申し込みに至っていません
	②⑬	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	1	4	2	対象となる児童は申し込みに至っていません
	②⑭	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	6	1	0	同一法人の成人拠点では、これまで取り組んできた方針や本人の様子など必要に応じて共有しています。
	②⑮	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	4	3	0	ひまわり学園の出張カンファレンスは毎年受けて支援の参考にしています。このほか、必要に応じて児童が併用しているデイサービスに出向いたり、どっぼの様子を見ていただきました。
	②⑯	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会はあるか	0	3	4	機会が提供できていません
	②⑰	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	2	3	2	次年度より、北区地域協議会のこども部会に参加を予定しています。
	②⑱	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	6	0	1	日頃の様子やプログラムごとの報告をできる限り細かく、丁寧に保護者に伝えていきます。また、課題についても共有できるように伝えていきます。
	②⑲	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	1	3	3	保護者相談は随時受けているが、ペアレントトレーニングのような手法を用いてはいません。
	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	7	0	0	契約時、丁寧に説明しています。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	7	0	0	随時受け入れています。

保護者への説明責任等	③②	父母会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	3	2	2	機会が提供できていません
	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7	0	0	重要事項説明書に記載し、契約の際に確認しています。支援の要望を受けた際には、プログラム等でアプローチを試みています。
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	7	0	0	会報の定期配信はしていません。活動概要、行事予定は年度はじめに周知しています。連絡体制は契約時に保護者へ説明しています。
	③⑤	個人情報に十分注意しているか	6	1	0	必要のない個人情報は漏洩しないよう、職員同士で注意しあっています。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7	0	0	必要に応じて手話や筆談、イラストなどの視覚化を支援と組み合わせています。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1	4	2	コロナ禍もあり、機会をもてませんでした。
非常時の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	7	0	0	契約時に周知済です。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出そのほか必要な訓練を行っているか	7	0	0	年2回の定期避難訓練の開催をしています。
	④①	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7	0	0	年1回の法人内全体研修を受講したり、事業所向けの研修に参加させています。
	④②	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得たうえで、放課後等デイサービス計画に記載しているか	7	0	0	児童や他の周囲の人に危害が及ぶ場合、また危険が想定される際には怪我のないように対象児童の身体を抱えて安全な場所で個別対応すること、その必要性がある場合には適宜報告することを支援計画作成時に個別に確認・記載しています。
	④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	5	0	2	受け入れ時に確認しているが、指示書はもらっていません。(口頭確認のみ)
	④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	6	1	0	事故に至らない危険が想定されることもヒヤリハットを作成し、職員間で情報共有しています。
その他	④④	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの様式を簡素化して、たくさん集まるようにして、更なる事故防止策をとっていきたい。 ・バリアフリーはエレベーターが無く階段の為どちらとも言えないにしました。また、地域住民との交流は、避難訓練時に地域に出向くことをしていますが、招待することはしていないので、どちらとも言えないにしました。 ・事業所としての基本対応がきめ細かく、職員もそれを理解してきちっと対応していて素晴らしいと思っています。当初は、そこまで?・・・とったりしましたが、限られた職員の人数で子供たちと向き合っているその姿と行動に今では納得して、自分自身も自信を持って子供たちに接することができています。 				

※職員数7名中7枚回収